

英語科における協働的学習による「理解の深まり」について

鈴木 悦子・赤松 猛・小野 章*

要約：本研究の目的は、英文読解において協働的問題解決学習を取り入れることで、内容理解を深めさせる授業を開発することである。授業実践では、物語文の行間を読む際に、推論発問の後で仲間の考えを聞くことで、問いを解決し、問いを新たに生むなど、理解を深める様子が見られた。また、時間いっぱい意見を交わすグループが増えた。さらに、翻訳する際に、心情を考えながら場面に適した言葉を使うようになった。

キーワード：協働的問題解決、推論発問、読解力

I. はじめに

本校では、今年度より「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造-協働的問題解決ができる子どもの育成を目指して-というテーマで研究を進めている（広島大学附属東雲小学校・東雲中学校，2015）。

英語科教育において、英語が「好き」と答えた中学生は39.4%で、9教科の中で最も低い（ベネッセの調査，2007）。また、こうして、現行の学習指導要領では、「学習形態を工夫し、ペアワークなどを適宜取り入れること」とあるように、協働して英文読解を進めるよう示している。

そこで本研究では、英文読解において協働的問題解決場面を設定し、生徒の意欲と内容理解の深めるとを目的とする。

II. 研究の目的と方法

本研究の目的は、中学校第2学年の英文読解において協働的問題解決場面を設定した授業実践を取り入れることで、生徒の意欲や理解の深まりについての効果を検証することである。

研究方法は、アンケートと生徒が記述したワークシート、授業記録を分析した。

III. 授業実践の概要

1 実施時期	平成27年11月16日（月）	2クラス
	平成27年11月17日（火）	2クラス
	平成27年11月18日（水）	2クラス
	平成27年11月20日（金）	1クラス
	平成27年11月21日（土）	1クラス

2 場所 第2学年1組，2組教室

3 対象 東雲中学校 第2学年1組，2組
79名（男子36名，女子43名）

4 授業の設計

(1) 基盤づくり

4月から長文を読む際、基本的な文構造を察知して読むよう、主語と動詞の関係や文の区切り方を指導した。このことにより、日本語訳の予習や、授業後に複雑な文について質問するなど、長文を正確に読み取ろうとする姿が見られるようになった。

(2) 協働学習の導入時

10月からグループ学習による協働学習を取り入れる場面を増やした。初めは、答えの確認のみにとどまることが多かった。その原因は、次の3つと分析した。

1つ目は、教材や発問が簡単なことである。

2つ目はグループ内の分かる生徒の意見を答えとしてよい体制をとったことである。

3つ目は、生徒が読みたいと思う教材、知りたいと思う発問になっていなかったことである。

(3) 実践授業の設定

まず、生徒が興味をもち、読みたいと思う題材を選びをし、開隆堂のSunshine English Course 3に記載されているO. Henryの“After Twenty Years”とした。

彼の作品は、無駄のない描写やユーモア、意外な落ちに特徴がある。予想外の展開へ惹きつけられ、興味深く英文を読み進めていくことができる。また、知りたいと思う発問にするため、行間を読みとる「推論発問」を取

り入れた。このことにより、登場人物の心情や場面を想像するなど、深く内容を理解することを必要とし、グループで協働して解決する場面を作った。

After Twenty Years

1

On a cold night in New York City, a policeman was walking along a dark street. He saw a man near the door of a store, and walked up to him.

“It’s all right, officer,” the man said. “I’m just waiting for a friend. Twenty years ago we promised to meet here again tonight.”

Then the man struck a match to smoke. The light showed his face. He went on talking. “We said goodbye here. I started for the West to make my fortune. I was eighteen.”

“Very interesting!” said the policeman. “I hope your friend will come around all right.” Then he went away.

2

About twenty minutes later, a tall man came from across the street. His face was not clear in the dark.

“Is that you, Bob?” the tall man asked.

“Is that you, Jimmy?” cried the man by the door. Each man took the other man’s hand.

“You’ve changed a lot, Jimmy!”

“Oh, I grew a bit after I was twenty,” said the tall man.

“Are you doing well in New York, Jimmy?”

“Yes. I work for the city. Let’s go to the place that I know well, and have a good long talk about old times.”

The two men began to walk along the dark street.

3

“Were you successful in the West, Bob?” asked the tall man.

“Yes, I was!” answered Bob. And he began to tell the story of his life in the West.

At a corner of the street, there was a drugstore. Its lights were on. When the two men came near the store, they stopped and turned to look at each other’s faces.

“You’re not Jimmy!” said Bob. “Twenty years is a long time, but it can never change a man’s face so much.”

“It sometimes changes a good man into a bad man,” said the tall man.

4

“You’re wanted by the Chicago police. You’ve been under arrest for ten minutes, Bob. Now, before we go, here’s a note for you. It’s from Jimmy,” said the tall man.

When the man from the West finished reading the note, his hands trembled a little.

Bob,

I was on time at the place. I was happy to find you there. But when you struck the match to smoke, I saw it was the face of the man wanted in Chicago. Somehow I couldn’t do it myself, so I sent another policeman to bring you in.

Jimmy

(4) 実際の授業の流れ (第4時, 第4場面)

本時の目標

場面や状況を推測しながら、物語の内容を理解する。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (◆評価)
1. Greetings (2分)	
2. Warm-up (3分)	
□30-seconds speech (ペア活動)	○興味のある題材を提示する。
・ペアで話した語数をカウントする。	○ペアで聞きあう雰囲気をつくる。
3. Review (5分)	
□Reading aloud	○内容を思い出しながらかみよように促す。
・前時の内容を音読する。	○ペアでチェックをし、つまづいたらヒントを出すよう指導している。
□Translation drill (ペア活動)	
・日本語を英語で表現する。	
4. Reading activity (20分)	
□内容読解	○時間設定をし、理解できないところがあっても推測するなどして読み続けるようにする。
・登場人物の人間関係を確認する。	○辞書担当を決め、協力して全員が内容を理解する。
・黙読	
・グループで内容を読み取る。	
・翻訳する。	○場面を想像して、自然な

<input type="checkbox"/> 内容理解 ・いつから逮捕された状態なのか。 ・Bobの手が震えていたのはなぜか。 <input type="checkbox"/> 展開の予測 (18分) ・手紙の内容を予想する。(個人→グループ→全体) ・物語の結末である手紙を読みとる。 ・ジミーが自分で逮捕できなかったのはなぜか。 6. Consolidation (2分) <input type="checkbox"/> 感想	表現をするよう促す。 <input type="checkbox"/> 物語の描写の奥にある事実や心情を読み取らせる。 <input type="checkbox"/> 手紙のグループで考えを深める。 <input type="checkbox"/> 手紙を読む前に、どんな手紙だったかを想像させることにより、実際の手紙を読みたいという気持ちにさせる。 ◆与えられた情報から状況を読み取り、展開を推測できる。【外国語理解の能力】
--	--

IV. 結果

1 アンケート

(1) 本校第2学年の79名に対し、4月と12月に英語に関するアンケートを実施した。

(2) 内容

次の表は、実際に行ったアンケートの「英語の学習にかかわること」の部分である。そう思う4、どちらかといえばそう思う3、どちらかといえばそう思わない2、そう思わない1の4段階で実施した。

表1 実際のアンケート用紙の1部分

①	英語の文法は難しい。	4	3	2	1
②	英語を聞き取るのは、むずかしい。	4	3	2	1
③	英語で自分の思いを話すのは、むずかしい。	4	3	2	1
④	英語の発音は、むずかしい。	4	3	2	1
⑤	英語の物語や長文を読むのは、むずかしい。	4	3	2	1
⑥	教科書を音読するのは、むずかしい。	4	3	2	1
⑦	単語を覚えるのは、むずかしい。	4	3	2	1
⑧	英語で自分の思いを書くのは、むずかしい。	4	3	2	1

(3) 結果

図1のように、英語の物語や長文を読むのは難しいという問いでは、4月には難しいと感じている生徒が57人だったが、12月には45人に減っている。

また、図2のように、英語の物語や長文を読むことが好きだという問いでは、4月には肯定的評価が46人だったが、12月には56人に増えている。

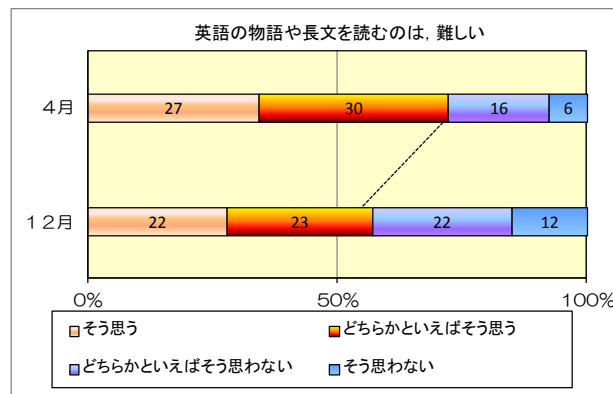


図1 アンケート結果①

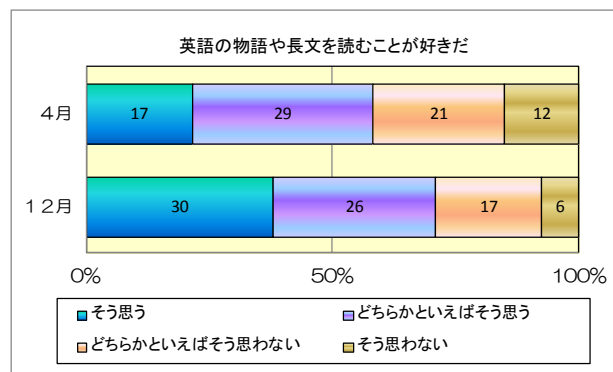


図2 アンケート結果②

2 授業実践

(1) 「His face is not clear in the dark.」について

第2場面では、ほとんどのグループが、彼の顔は暗くてよく見えなかった。」翻訳していた。彼の顔は暗闇にまぎれてよく見えなかった。と訳すグループがあった。

(2) 「his hands trembled a little.」について

第4場面では、少し手が震えていた。と訳すグループは少なく、かすかに手が震えていた。彼の手がぶるぶる震えていた。手が小刻みに震えていた。など多様な意見が出てきた。この表現には、さらに恐怖と怒りで手が震えていたと、心情を想像して解釈するグループもあった。

(3)第2場面の「I work for the city.」について

どのような職業か」という推論発問に対して、公務員と答えたグループが多かった。また、議員や市長、さっきの警察官と答えたグループもあった。

(4)第2場面の「Let's go to the place that I know well.」について

「具体的にどこだと思うか」という推論発問に対して、思い出の場所、行きつけの店、母校や公園など懐かしの場所へ行こうと楽天的な展開を想像しているグループが多かったが、警察署と答えるグループもあった。その理由としては、I know well で we ではないので、二人の思い出の場所ではなく、個人的に良く知っている場所だと思ふ。ということであった。

3 ワークシート

実践授業後の生徒の振り返りでは、協働学習に対して、肯定的な意見が多くあった。

○日本語への訳し方はいくつかあって、その中から一番ふさわしい訳を選ぶということは、とても面白いなと思った。

○今までの授業でも、グループで話すことはあったが、これほど濃いものはなかったのだから、個人的には楽しかったと思う。また、辞書を引いたり、それぞれの意見を言い合ったりして、自ら訳していくのは新鮮だった。

○むずかしい単語とかたくさんあって、すらすらと進めた場面は少なかったけど、グループで協力して考え合うことができた。話もとても面白くて、続きが知りたいなあと考えた。

また、英語の長文を読むことに対して、意欲や興味が深まったという内容の記述が多くあった。

○長文を読むのはあまり好きではなかったけど、この話を読んで少し興味を持てた。ひとつひとつ考えることによって、次どうなるんだろうとか、すごく気になった。こういう英語の本を読んでみるのもいいなと思った。

○1～4まで読んでいくにつれて、英語の長文を読むことが好きになっていった。また、分からない単語があったときには調べたいと思った。

○自分の予想があたってすごくうれしかった。英語はすらすら読むことができないので、じらされる感じがすごく続きを読みたくなった。

V. 考察

1 協働的問題解決学習は生徒の理解を深める

2年生になり英文が長く複雑な表現が増え、今回中学3年生の内容的を扱ったにもかかわらず、図1のように長文は難しいと思うと答えた生徒は減っている。また、生徒が書いたワークシートから、グループで話し合うことで疑問を解決し、内容の理解が深まっていることがわかる。また、自主的に考えることに充実感を感じ、英語への抵抗感が減っていることがわかる。

2 協働的問題解決学習は生徒の意欲を高めるのに効果的である

図2のように、英文を読むことが好きだと答えた生徒は、17%から30%と増えている。また、生徒が書いたワークシートから、グループで話の内容について交流するうちに想像が広がるなど、長文に対する興味の深まりがうかがえる。

VI. おわりに

本研究では、中学校第2学年の英文読解において協働的問題解決場面を設定した授業を実践した。その結果、授業設定の視点として、次の2点が得られた。一つは、生徒にとって興味のある題材を選ぶこと。もう一つは、文面に表れない行間の意味について問うことである。

これらの視点は、生徒の意欲を向上させ、主体的に考え、多様な意見を生み出すので内容の理解を深める学習になると考える。

引用・参考文献

江利川春雄 英語教育に“なぜ”“どう”協同学習を導入するのか 大修館 2010.

中学校学習指導要領解説 外国語編

**A way of improving Reading Skills
-through Collaborative work-**

Etsuko SUZUKI, Takeshi AKAMATSU, and Akira ONO

Abstract. The aim of this study was to develop effective English lessons through ‘collaborative problem solving.’

In reading activities, it is necessary for students to consider the background of the subject matter and their feelings about it. Through collaborative problem solving in groups, students are able to express their own points of view. Listening to the ideas of other students leads to obtaining a better understanding of the background of the subject matter and cultivating their feelings about it. These activities also help Japanese students develop richer expression in the Japanese language.

Key word : collaborative problem solving, reading skills, English lessons